

平成 25 年 1 月 28 日

各 位

会 社 名 株式会社アイ・オー・データ機器
 代表者名 代表取締役社長 細野 昭雄
 (J A S D A Q ・ コード 6 9 1 6)
 問合せ先 社長室 室長 真田 秀樹
 (T E L 076-260-3377)

平成 25 年 6 月期連結業績予想の修正および特別損失の発生に関するお知らせ

最近の動向を踏まえ、平成24年11月13日に公表いたしました平成25年6月期の連結業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

また、本日別途開示いたしました希望退職者の募集に伴い、平成25年6月期に特別損失が発生する見込みになりましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 25 年 6 月期第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想数値の修正 (平成 24 年 7 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回予想 (A)	16,500	△1,100	△1,000	△1,950	△145.53
今回修正 (B)	17,500	△120	△140	△1,000	△74.63
増減額 (B-A)	1,000	980	860	950	
増減率 (%)	6.1	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 24 年 6 月期)	19,839	679	819	763	57.01

修正の理由

当企業グループは、平成 24 年 11 月 13 日付公表の業績予想修正において、当第 2 四半期連結累計期間の業績予想については、厳しい冷え込みが続くパソコンおよび TV 関連需要の下、前連結会計年度終盤より続く製品価格の下落基調の継続と、売上不振に伴い在庫調整には時間を要する見通しから、第 1 四半期に計上した損失が更に拡大するものと想定しておりました。

しかしながら、第 2 四半期の後半に入り、緊急対策として進めてきた製品展開や取引条件の見直しによる効果が現れるとともに、円高修正の動きの影響も受けて、製品の価格下落に歯止めがかかりました。また、年末商戦期の集中拡販により、懸案の滞留在庫の処理が想定を上回るペースで進展し、利益率は急速に持ち直しました。

以上の結果、売上高は前回予想を僅かに上回る見込みにありますが、営業損益、経常損益、四半期純損益は、前回予想を大幅に上回る見込みとなりましたので、第 2 四半期連結累計期間の業績予想を修正いたします。

2. 平成 25 年 6 月期通期の連結業績予想数値の修正（平成 24 年 7 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日）

（単位：百万円、％）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 り 当 期 純 利 益
前回予想（A）	33,500	△1,600	△1,400	△2,300	△171.65
今回修正（B）	34,000	△550	△550	△1,800	△134.34
増減額（B－A）	500	1,050	850	500	
増 減 率（％）	1.5	—	—	—	
（ご参考）前期実績 （平成 24 年 6 月期）	38,551	217	368	364	27.18

修正の理由

当企業グループを取り巻く経営環境は、円安進展を背景に輸出企業の業績回復への見方が強まっておりますが、デジタル家電周辺機器の国内販売を主体とする当企業グループにおいては、需要低迷が続く中、海外からの部品調達価格の上昇が収益を圧迫する、厳しい状況が予想されます。

こうした状況の下、当企業グループは、成長事業の確立を急ぐとともに、一層の経営合理化を進め、収益の早期回復に努めて参ります。

以上を踏まえ、第 2 四半期連結累計期間の業績進捗を勘案し、通期の業績予想について精査しました結果、売上高は微増ではありますが、営業損益および経常損益は前回予想を大幅に上回る見通しにあります。また、当期純損益につきましては、前述の要因に加え、次項の特別損失の発生を見込んでおりますが、前回予想を上回る見通しにありますことから、前回公表いたしました通期の業績予想を修正いたします。

3. 特別損失の発生について

本日別途開示いたしました「希望退職者の募集に関するお知らせ」の通り、希望退職者の募集に伴い発生する特別加算金および再就職支援費用の約 3 億 50 百万円を、平成 25 年 6 月期において特別損失として見込んでおります。

以 上